

# 総務産業常任委員会会議録

- 1 日 時 令和5年12月4日(月)  
11時00分開会 12時00分閉会
- 2 会議場所 役場3階 第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：中河つる子 副委員長：田村幸紀  
委 員：只野敏彦、鈴木孝寿、中島里司、深沼達生
- 4 事務局 事務局長：大尾 智
- 5 議 件  
(1) 所管事務調査の申し出について  
(2) その他
- 6 会議録 別紙のとおり

【開会 11:00】

(1) 所管事務調査の申し出について

委員長（中河つる子）： 只今より総務産業常任委員会を開催する。所管事務調査の申し出についてである、3月定例会までの間の所管事務調査について、調査申し出事項を協議したいと思う。何か皆さんの方で考えているものがあるか。

只野委員： デジタルトランスフォーメーションをやりたいと思う。

田村委員： 私も自治体DXのことは、町の状態がどういように進んでいるのかと、管内との比較も含めて清水町も進めていかなければならないというところで、調査はしたいと思っているのが一つと、今回の報告で空き家対策のことをやったので、空き地空き家対策にピックアップしたものというのも必要だと思ったのと、もう一つ、以前にも話したが、委員会がまたぐのでなかなか難しいと思ったが、公有財産、公共施設のこれからの取り組みというのを何らかの形でできないかと思って、総務産業でやるのであれば総務課が所管の行政財産に限られると思うが、公共施設の公有財産、例えば元各学校の体育館が保健福祉課の方にいけば総務ではないが、総務課所管で集まってきているものもあると思うので、行政財産として、それが今後どのように活用されていくのかというのも、まとめていかなければならないと思っていた。

鈴木委員： 最終日に出てくるふるさと納税の何年か前に機構ができた、ふるさと納税の事務をつかさどるといのか、事務組合ではないがそういうのがあって、それが実質破綻しているといのか実質解散状態になるということで、新しいものができるというような説明を前回全員協議会であったと思うけれども、これが実際すまじいことになっているという話を聞いたりしているので、例えば、委託していた人が結局はうまく動いていない、委託料だけ払っているとか、個別に一般質問しようかと思っていたけれども、丁度今、整理整頓しっかりやっている最中だということだったので、今回見送ったものの、果たして新しい委託先を探していると、その予算措置もしようとしているけれども、実際これが本当に必要なかどうかということも調べなければならぬ、機構が独立した団体ではあるけれども、町からの補助が100%に近いので、そういう諸団体になった瞬間に調査できない状態になっているといのか、一般の議会活動の中では見ることができない、やれば今回委員会調査できるのはうちの委員会しかないので、やったら面倒くさいかなと思いつつも、実質的に問題になっているという話はちらちらと聞いてはいるので、今の段階でメス入れた方がいいのかという気はしている。ただそれは皆さんの意見を聞きながら、ただもうちょっと違うのもやりたいとは思っていたけれども、例えば建設関係とか。建設課とか委員会としてまるっきり入っていないので、今年、水道、建設何もやっていないからという気持ちもある。

中島委員：特にないが3人の方から色々な意見が出た、次から次に出てきて委員長まとめられるか、全部やるわけにいかないのだから。特に今期は1月から2月、時期的なものを考えて判断しなければならないから、期間が短いといえば短い、早くても1月の中旬から2月末にはまとめなければならない、だから、項目色々出てきて次から次聞いていって項目増えて実際できるかどうか、それと、町内で済みますのか、先程他の町もと言って、今この時期行けるかどうか、相手は結局は予算編成に入っているわけだから、だから時期や何かを勘案してこういうものやりたいと言わなければ、ただあれもこれもで難しさがあるのではないかと思うので、私は今回は項目としては今3人から出た中で最終的には委員長の判断に従う。

深沼委員：私も今出た中から選ぶ形でいいと思う。

委員長：今まで出された内容は、デジタルトランスフォーメーションについて、空き家空き地、公有財産の活用について、ふるさと納税について、4点について出ていたが、この中でやれそうなこと。暫時休憩する。

【休憩 11:10】

【再開 11:11】

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。今出ていた中では、時期的なものもあるし、デジタルトランスフォーメーション、なかなか難しくどこから聞いていくというのかわかりづらいが、私としては空き家空き地というのは、町内のものを少しこの間の所管事務調査でやってきた中での経験もあり、清水町ではどう進めていくかというので取り組んだらどうかと思うがいかがか。

中島委員：今出た答えをここでどうかではなくて、期間が少しあるから、委員長がそれぞれ発言された方の意図なり、委員長が疑問を持っているものがあれば直接聞いていただいて、最終的な判断をこの場じゃなくて次の委員会で言っていただいてもいいのではないかと思う。

田村委員：自治体DXも空き家の関係も公有財産の今後の取り扱いというのも、たぶん話し合っているのであれば新年度予算に向けて町は今予算査定とか組んで、これから方針が、来年度の方針が出てくると思うので、この段階で調査をしたら、もしかしたら行き違いになったりだぶったりすることがあるので、予算編成が終わってこうやるとなったらその説明を聞いてどうだろうと調査したらと思い、遅らせてもいいと感じた。

委員長：暫時休憩する。

【休憩 11:14】

【再開 11:18】

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。11日までに内容について相談しながら今出た内容の

中でプラスアルファというのを入れながら考えたいと思う。

## (2) その他

委員長：それでは、その他として令和6年度の道外研修について、視察テーマ、視察先について皆さんの意見をお聞きしたいと思う。

只野委員：私は長野県伊那市、内容は移住定住と地域おこし協力隊の活用、全国的に先進的な町なので、総務産業だけで行くのか全員で行くのかかわからないが、教育的な面においても伊那市は色々小学校の活用だとか先進的な事をやっているの、一緒に行くという話も聞こえてきているので、厚生文教とも一緒にできると思うので、伊那市が行きたいと思っている。地域おこし協力隊が地域に根付くというのか定着する率がものすごく高い。

委員長：暫時休憩する。

【休憩 11:22】

【再開 11:24】

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。その他あるか。今の段階では東京方面、長野県伊那市方面で出ている。そういうことで、今日どうしても決めなければならないという内容ではないので、他に行きたいところがあるとか、調べたいということがあれば意見を言ってもらいたいことにしたい。その他、私の方から、毎回、所管事務調査をすると委員長、副委員長に所管事務調査で聞いてきたということで、意見をもらいながら最終的には委員長、副委員長でまとめて、それを皆さんに見てもらい、添削してもらいたいということでやってきていた。しかし、これは添削してもらいたいということで、こうしたらいいとかいう指導ではないということで、私たちもまとめるのに色々やっているわけだけれども、今後、いつも委員長、副委員長で書いてまとめを出すというのではなくて、皆さんそれぞれから、ちゃんとした文章ではなくても、こういうことをまとめに入れて欲しいという文章を書いて、それを私たち委員長、副委員長で入れながらまとめを作るといようにしたいと思っている。色々まとめについての間違いとかもあるので、数字の間違いとかもあるので、そういうものも発見してもらったりしながら皆さんにまとめを読んでもらって、それに対しての意見というのももらっていたが、これは添削をしてもらいたいということで、こうしたらいいと委員から言われて私たちが直す内容ではないと思う。なので、そこを皆さんのまとめに入れてもらいたい項目、それらを出してもらい、それを委員長、副委員長はそれを加味しながらまとめの文章を作るとい方向にしたいと思うが。

鈴木委員：たぶん、添削風に言っているのはこの中で私だけだと思う、私に言っているというのは良くわかるけれども、委員会報告書は元々何と言ったら、ただ調べてきて良かったと感想文ではない、今まででできたやつはほとんど感想文だった、最初にできたやつは、何をまとめとして我々はこれを理事者側に伝えるかというのが大事

であって、そこがぼやけてしまったら何のために1泊2日してきたのかわからないし、その調査の内容もわからないから、私はそこの最終のまとめのところを一番厳しく見させてもらっている、でも、もうずっと委員長も何回かやっているけれども全部私やっていた、そして委員会の皆さんに見せて、これでどうかとやっていた、もちろん添削されたこともあるけれども、やり方としてこれから変えるというならそれはいいが、添削されるのが嫌だからこうすると言われたので、それだったらもう委員会調査しなくてもいいのではないかな。どういうことなのだろう、私はそういうように捉えた。添削されるのが嫌だからもう出すの嫌だというのなら調査もしなくていいと思うと極論で私は思っているがいかがか。

委員長：暫時休憩する。

【休憩 11:29】

【再開 11:30】

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。

鈴木委員：まとめやるのならこれからまとめをメールじゃなくて、見てください何日までとなっているけれども、委員会をやろうちゃんと。添削する委員会を。添削もしくは皆で意見交換する。それをしないためにああいうメールでやっているのではないかな。集まるのが面倒くさいというのではないが、わざわざ集まる必要ないから、それで送って気になるところがあれば書いてくださいと、気になるところを書いたらやってられないということ、正副は、そう取れる。いいのかな。毎回委員会やろう。メールのやり取りじゃなくて。

委員長：暫時休憩する。

【休憩 11:32】

【再開 11:52】

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。皆さんの意見を聞かせてもらった。まとめということの大切さを踏まえながら、皆さんの意見も聞きながら、まとめは今までと同じように皆さんの意見を聞きながら委員長、副委員長でまた書いて、それを皆さんに読んでもらって報告するという方法でやるということで再確認というか、やりたいと思う、よろしいか。

(「はい」との声あり)

委員長：よろしくをお願いします。

事務局長(大尾 智)：確認だが、委員長が最初に言っていた、各自、箇条書き等でもいいので、こういうところを載せて欲しいみたいな事を文章で出してというのも無しでいいのかな。

中島委員：私は今まで半年間、最終的には委員長、副委員長に一任ということで、私はそういう考え方をしている。当然、中身的にこれは入れて欲しいというのが特にあれば、一任した流れの中で、その時にそれを言ってこの件についてはと、私は今回、浦河については2年、4年で、民間で自由に使えるというような話も、今回書いてあったので、そういう項目的にあれば口頭でも言えば、言ってなければ最終的には今までの経過からみたら委員長、副委員長にお任せということでやっていたわけだから、それに経験があるとか無いとかではなくて、任せられたのだから報告については責任をもって報告してもらいたい。私はそれに対して誤字とか間違いがあれば別けれども文章的なものは人それぞれだから、思想も違うから、私自身はその辺についてはそういう考え方で一任した以上は多少違っていても、それを全部直してもらおうと言う気は毛頭ない。従来どおりということで委員としては、もし入れて欲しいことがあれば、まとめる前に委員長、副委員長に申し出をすればいいのではないかと思っている。今後ともよろしく願います。

委員長：今までのように、所管事務調査をした後話し合いをし、大事なところを、こう思うということをお皆さんの意見を聞き、それを委員長、副委員長でまとめを書き、委員に戻して見てもらう、それを最終的にまとめるということで、今までと同じことになるが、今までの話し合いも無駄ではなかったと思うので、そういうことでやっていくということによろしいか。

(「はい」との声あり)

委員長：それでは、そのようにしたいと思う。次の委員会は12月12日、本会議終了後とする。その他なければ、以上で総務産業常任委員会を終了する。

【終了 12:00】